

阿南市北の脇海岸の古銭

植地岳彦¹

[Takehiko Ueji¹ : Introduction of old coins found at the Kitanowaki coast of Anan City]

キーワード：大量埋納銭，北の脇海岸，銅銭

はじめに

徳島県阿南市の北の脇で発見された古銭の一部が2012年と2017年に徳島県立博物館に寄贈された。当館ではトピック展示や博物館ニュースといった機会を利用して、当資料を断片的に紹介してきたが、基礎整理が一段落したので、本稿でまとめて紹介する。

北の脇海岸の概要

北の脇海岸は、徳島県阿南市中林町、JR 見能林駅から東へ2 km の位置にある。30 ha という広大な松原と長さ約2 km の砂浜が広がる。紀伊水道に面し、徳島県では有数の海水浴場として知られる。北の脇海岸の北東側には中林漁港や付加体メランジュの優れた観察地（石田ほか、2015）である蕨石（わらべいし）海岸がある。

北の脇海岸周辺の遺跡（図1）

北の脇海岸では、古墳など地表に残る遺跡・遺構がなく、発掘調査例もない。海岸では、波によって打ち上げられた漂着物の一部として、弥生時代の可能性のあるものから近現代のものまで、様々な時代の土器片や陶磁器片が採集されている（西崎・高島、2014）が、古銭やその埋蔵地との直接的な関連を示す資料ではない。

北の脇古銭発見地に最も近い位置にある遺跡は、出土地の北西約1 kmにある伝才見銅鐸出土地（阿南市才見町）である。現時点で銅鐸は確認できない（梅原、1985）。また、才見地区では阿南道路建設に伴って試掘調査が実施され、遺構は確認されていないが、弥生土器や中世～近世の土器、寛永通宝などが出土している（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、1997）。

古墳時代では、北の脇海岸の西約2 kmの阿南市学原町に、横穴式石室をもつ直径10 mの円墳で、古墳時代終末期に築造された学原剣塚古墳がある。また北の脇海岸から南西約2 kmの阿南市大潟町には古墳時代中期の古墳である矢剣塚古墳がある（阿南市史編さん委員会、1988）

古代には、阿南市宝田町周辺に、立善寺が営まれた（財団法人徳島県埋蔵文化財センター、1997）。また、川原遺跡では平安時代の建物跡が確認されている（阿南市教育委員会、2011）。

北の脇海岸の古銭が埋められた時期と考えられる中世では、方形の溝で囲まれた多数の掘立柱建物群が確認された阿南市桑野町宮ノ本遺跡（徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター、2010）がある。また、那賀川・桑野川の両下流域において、牛岐城（富岡城）、本庄城跡などの平地城館がある（徳島県教育委員会、2011）。

古銭が大量に発見された例としては、阿南市長生町から約26,000枚の古銭が出土している。また、阿南市大野町畑田からも399枚の古銭が出土している。（兵庫埋蔵文化財調査会・永井、1994）。

古銭発見の経緯と経過

寄贈者の一人である尾崎巧氏によると、1950～1960年代（昭和30年代）に、尾崎氏が北の脇海岸西側の浜堤上で土取り工事を行ったところ、工事の関係者が壺に入った大量の古銭を土中から発見したようである。古銭発見地点は、標高約5 mの浜堤最高地点の松林より内陸側にある集落内で、標高は約4 mである。古銭が入っていた壺は高さ約40 cm、固く焼き締められて施釉され、石灰の固まりで蓋がされていたとのことである。壺は内

2018年12月1日受付、12月26日受理。

¹ 徳島県立博物館、〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園。Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-chō, Tokushima 770-8070, Japan.

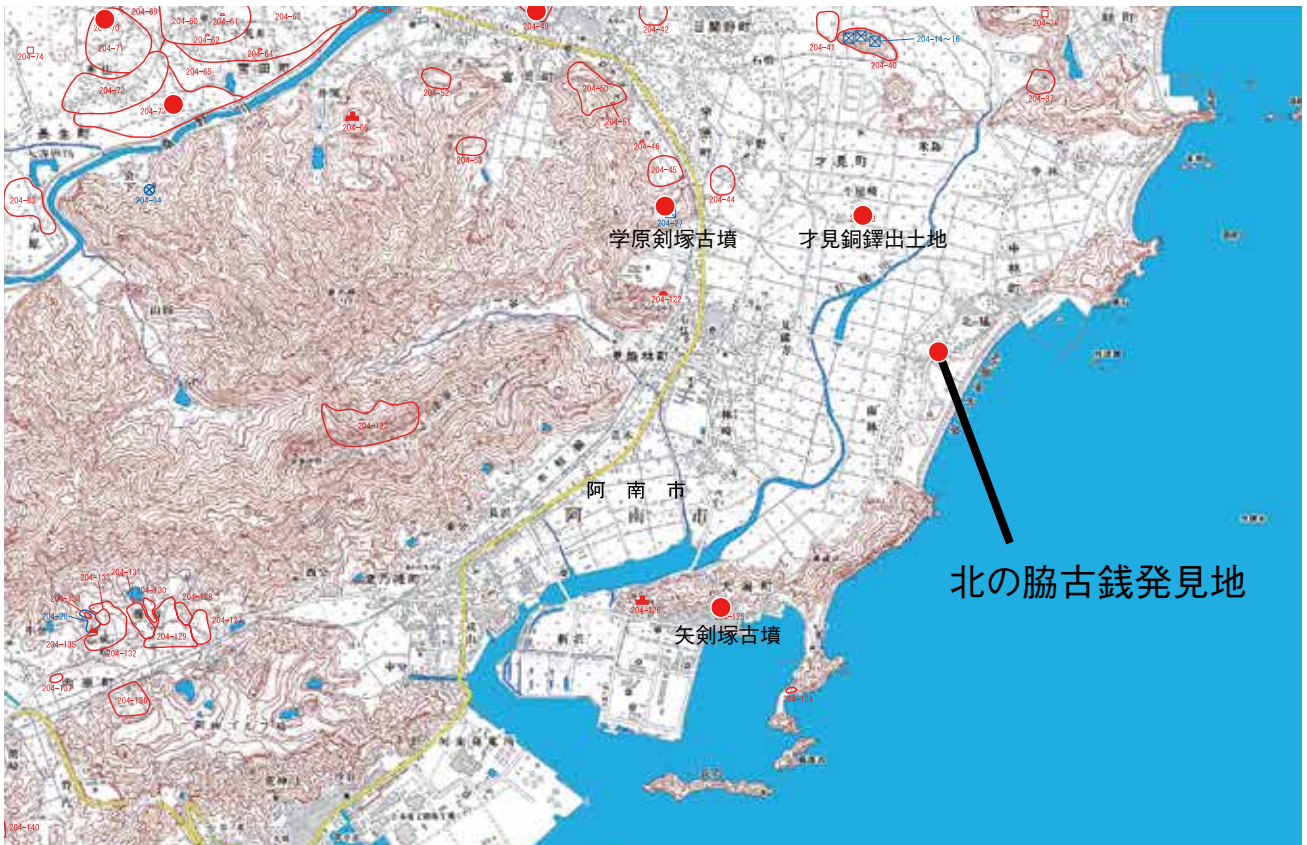


図1. 北の脇古銭発見地と周辺の遺跡. 徳島県遺跡地図(徳島県教育委員会, 2006)に加筆.

部の古銭を回収した後に発見地点付近に置かれ、数日後には行方不明となり、現在は不明である。

発見時点には、古銭は6000～10000枚あったとみられる。尾崎氏のほか、工事関係者など数名で分割保管していたが、散逸したものもあるようで、現時点で所在が明らかなものは、2012年に秋本沙枝子氏、2017年に尾崎氏が博物館に寄贈した2686枚となっている。

北の脇古銭の存在が公になった時期は明らかではない。徳島県内で大量出土銭に関する調査報告などで言及されることもなく、徳島県遺跡地図では古銭出土やその出土地に関して記載がない(徳島県教育委員会, 2006)。更に2002年に3699枚の古銭が出土した寺山遺跡(徳島市)の発掘調査報告書では、1000枚以上の古銭が出土した遺跡を9遺跡示すが、北の脇古銭は含まれていない(徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 2007)。

一方で、博物館には1987年に北の脇古銭のうち尾崎氏所有分について銭種や点数調査を行ったメモのコピーが残されている(図2)。2017年の寄贈分とメモに残されている古銭の種類や点数には大きな差があり、このメモが示すデータの扱いには慎重を要するが、1980年代後半に調査対象として認識されていた状況を示している。同時にメモされた古銭は全て1枚ずつ別になっているが、

現状で別の銭と固着したような痕跡が残るものが多いことから、数枚が固着した古銭を剥がして1枚ごとに分けた作業の後、調査を実施したことを示すと考えられる。

このメモと合致するかは不明であるが、尾崎氏によれば古銭の調査があったとの証言もあり、調査や公開が不十分ながら、一部には古銭の存在が知られていたようだ。以上のことから、2012年に秋本氏が博物館に寄贈する以前は、北の脇古銭に関する情報は、共通認識されているものではなかったと言える。

2012年寄贈分は高島芳弘が概要を紹介している(高島, 2015)。ここで尾崎氏からも寄贈があったことを明らかにしているが、尾崎氏寄贈分は整理と集計が未実施であったため詳細には触れていなかった。博物館では2017年に基礎整理を行い、寄贈の手続きも完了したので、2018年の徳島県立博物館トピック展示「阿南市北の脇海岸の古銭」で概要を紹介したほか、古銭のサビの様子について紹介(植地, 2018)。2018年度の徳島県立博物館特別陳列「ごっついで那賀川—博物館資料で見る那賀川流域の自然とくらし—」で展示するなど、積極的な公開を行っている。

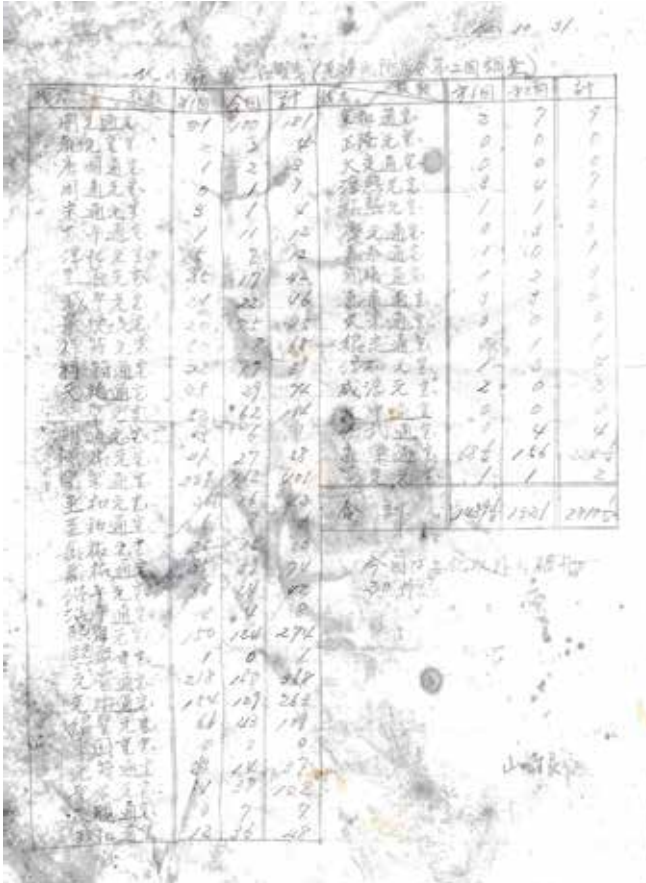


図2. 北の脇古銭の調査メモ。

古銭の整理

古銭の整理作業は、クリーニング、銭種の判読、集計が基本となる。分類作業は、『中世の出土銭—出土銭の調査と分類—』（永井編，1994）を基準として行った。

著者は、2017年寄贈分の整理を行った。古銭は、数枚のポリエチレン袋に収められていた。大半は一枚一枚バラバラの状態であったが、一部は古銭の孔に木綿糸が通された状態で同じ種類の銭が数十～数百枚がまとまった状態であった。

袋から古銭を取り出すと、強い油の臭いがあり、古銭表面には粘度の高い液体が付着していた。古銭の発見から寄贈時点まで、特殊な作業が行われた可能性は低く、防錆目的で市販の機械油に浸漬していたと思われる。機械油は液状を保っており、他の「モノ」に接触するとそれを汚染する。また、埃や土砂といった微細な物質、植物破片（藁など）や虫の死骸などを取り込み、汚れとなる要因にもなっていた。

整理作業は、この機械油を除去することから始めた。ウエスで油をぬぐい取った後、界面活性剤とブラシを使用して洗浄を行った。しかし、古銭の文字部分にある微細な凹凸部分に付着する機械油・汚れの洗浄ではブラシ

の毛先が接触できず、効果がみられなかったため、実体顕微鏡で観察しながらプローブ（探針）で機械油・汚れを刺激し取り除いた。機械油は汚れや腐食生成物の空隙にも浸透し、固着する汚れ物質を軟化していたようで、作業は効率よく実施できた。ただ、機械油についてはあまりにも微細な空隙にも浸透していることが災いし、十分な洗浄効果が得られず、乾燥後しばらく置いても、機械油の臭いが感じられる場合は作業を数度繰り返した。

またこの洗浄時に銭種を同定した。大半は肉眼観察で判別できたが、表面の錆の影響で判別できない資料についてはエックス線写真撮影を実施し、一部を判別した。

2012年寄贈分は、洗浄された後に判読、集計されて保管されている。2017年分と比較すると、微細な砂粒が表面に残存し白っぽい色調の資料が多い。機械油に浸漬されていなかったことに起因すると考えられる。2017年分は、イレギュラーな洗浄であったため、保存にとってどのような影響があるか、現段階では不明である。錆の進捗をはじめとする劣化の進行について、2012年分と比較も含め、継続して観察する必要がある。

古銭の一覧

寄贈された北の脇古銭は2686枚で、すべて銅銭である。21枚は銭種が不明であったが、47種類の銭種が確認された。

初鑄年が最も古い銭は開元通寶（621年：唐）、最も新しい銭は永樂通寶（1408年：明）である。出土点数が最も多い銭は永樂通寶（600枚）で総数の約22%、2番目は元祐通寶（463枚 初鑄1078年：北宋）で約18%を占める。以後は総数の一割以下となっており、皇宗通寶（223枚 初鑄1038年：北宋）、元祐通寶（166枚 初鑄1086年：北宋）、熙寧元寶（143枚 初鑄1068年：北宋）、天聖元寶（142枚 初鑄1023年：北宋）、開元通寶（103枚：唐）と続き、残りの銭は100枚以下であった。国別では全て中国銭である。王朝別では北宋が72%、明が23%と両者が大半を占めるが、明銭の99%が永樂通寶であった。唐では開元通寶が約4%となるのが注目され、南唐、南宋、金の古銭も点数は少ないが含まれている。

古銭の埋納時期について

北の脇古銭のうち、現在判明している最新銭は永樂通寶である。所在の確認ができない古銭も多数あることから暫定的ではあるが、北の脇古銭が、集約されたのは

| | 錢貨名 | 国名 | 初鑄年 | 枚数 |
|----|-------------|----|------|-----|
| 1 | 開元通寶 | 唐 | 621 | 103 |
| 2 | 軋元重寶・当十錢 | 唐 | 758 | 6 |
| 3 | 開元通寶 (会昌開元) | 唐 | 845 | 1 |
| 4 | 唐國通寶 | 南唐 | 959 | 1 |
| 5 | 宋通元寶 | 北宋 | 960 | 16 |
| 6 | 太平通寶 | 北宋 | 976 | 11 |
| 7 | 淳化元寶 | 北宋 | 990 | 15 |
| 8 | 至道元寶 | 北宋 | 995 | 24 |
| 9 | 咸平元寶 | 北宋 | 998 | 38 |
| 10 | 景德元寶 | 北宋 | 1004 | 49 |
| 11 | 祥符元寶 | 北宋 | 1008 | 76 |
| 12 | 祥符通寶 | 北宋 | 1008 | 46 |
| 13 | 天禧通寶 | 北宋 | 1017 | 82 |
| 14 | 天聖元寶 | 北宋 | 1023 | 142 |
| 15 | 明道元寶 | 北宋 | 1032 | 6 |
| 16 | 景祐元寶 | 北宋 | 1034 | 26 |
| 17 | 皇宋通寶 | 北宋 | 1038 | 223 |
| 18 | 至和元寶 | 北宋 | 1054 | 23 |
| 19 | 至和通寶 | 北宋 | 1054 | 8 |
| 20 | 嘉祐元寶 | 北宋 | 1056 | 25 |
| 21 | 嘉祐通寶 | 北宋 | 1056 | 41 |
| 22 | 治平元寶 | 北宋 | 1064 | 43 |
| 23 | 治平通寶 | 北宋 | 1064 | 5 |
| 24 | 熙寧元寶 | 北宋 | 1068 | 143 |
| 25 | 元豐通寶 | 北宋 | 1078 | 463 |
| 26 | 元祐通寶 | 北宋 | 1086 | 166 |
| 27 | 紹聖元寶 | 北宋 | 1094 | 75 |
| 28 | 元符通寶 | 北宋 | 1098 | 25 |
| 29 | 聖宋元寶 | 北宋 | 1101 | 62 |
| 30 | 大觀通寶 | 北宋 | 1107 | 22 |
| 31 | 政和通寶 | 北宋 | 1111 | 62 |
| 32 | 宣和通寶 | 北宋 | 1119 | 3 |
| 33 | 紹興元寶・折二錢 | 南宋 | 1131 | 1 |
| 34 | 淳熙元寶 | 南宋 | 1174 | 11 |
| 35 | 紹熙元寶 | 南宋 | 1190 | 2 |
| 36 | 嘉泰通寶 | 南宋 | 1201 | 1 |
| 37 | 開禧通寶 | 南宋 | 1205 | 1 |
| 38 | 嘉定通寶 | 南宋 | 1208 | 4 |
| 39 | 大宋元寶 | 南宋 | 1225 | 1 |
| 40 | 淳祐元寶 | 南宋 | 1241 | 2 |
| 41 | 皇宋元寶 | 南宋 | 1253 | 1 |
| 42 | 景定元寶 | 南宋 | 1260 | 2 |
| 43 | 咸淳元寶 | 南宋 | 1265 | 1 |

| | | | | |
|----|------|---|------|-------|
| 44 | 正隆元寶 | 金 | 1158 | 2 |
| 45 | 大定通寶 | 金 | 1178 | 2 |
| 46 | 洪武通寶 | 明 | 1368 | 3 |
| 47 | 永樂通寶 | 明 | 1408 | 600 |
| | 不明 | | | 21 |
| | 合計 | | | 2,686 |

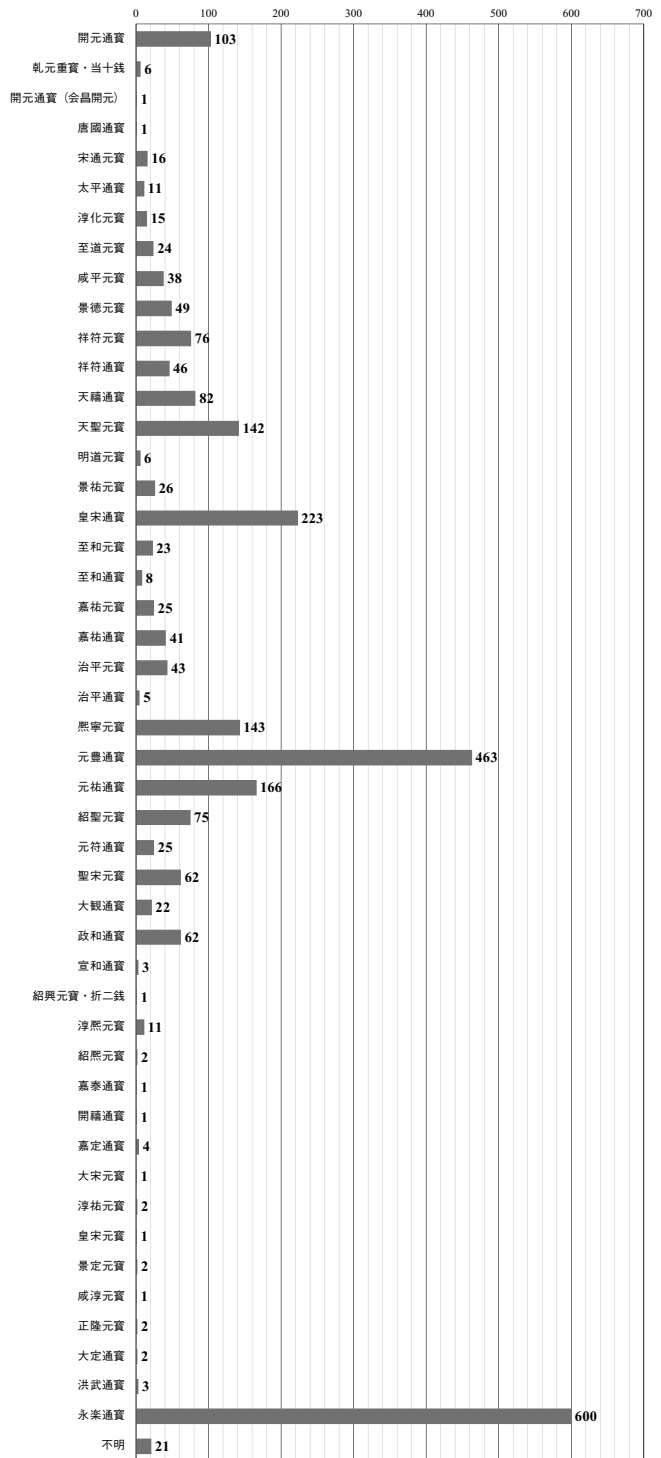


表 1. 北の脇古錢一覧表.

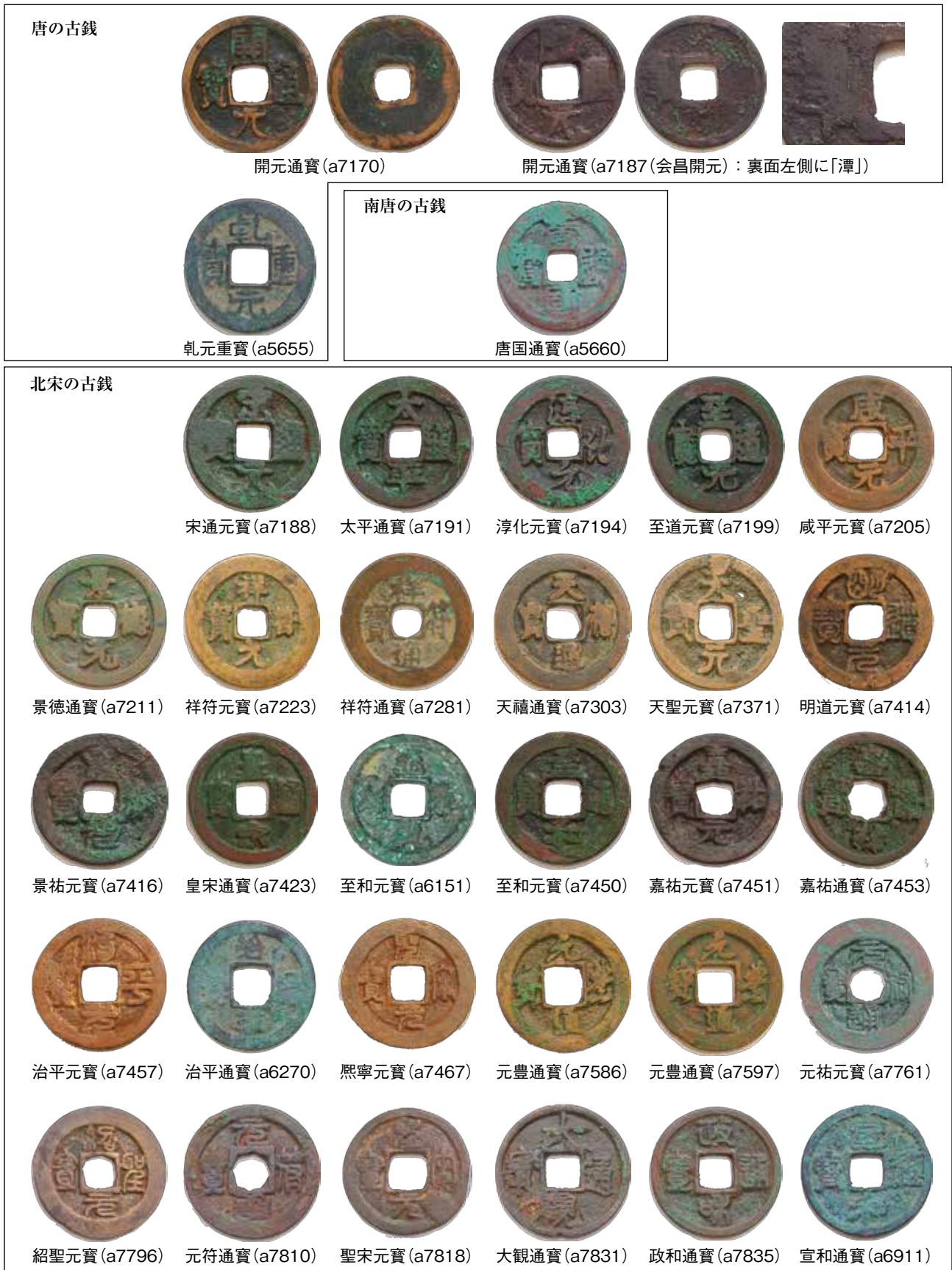


図3. 北の脇古銭 (1).

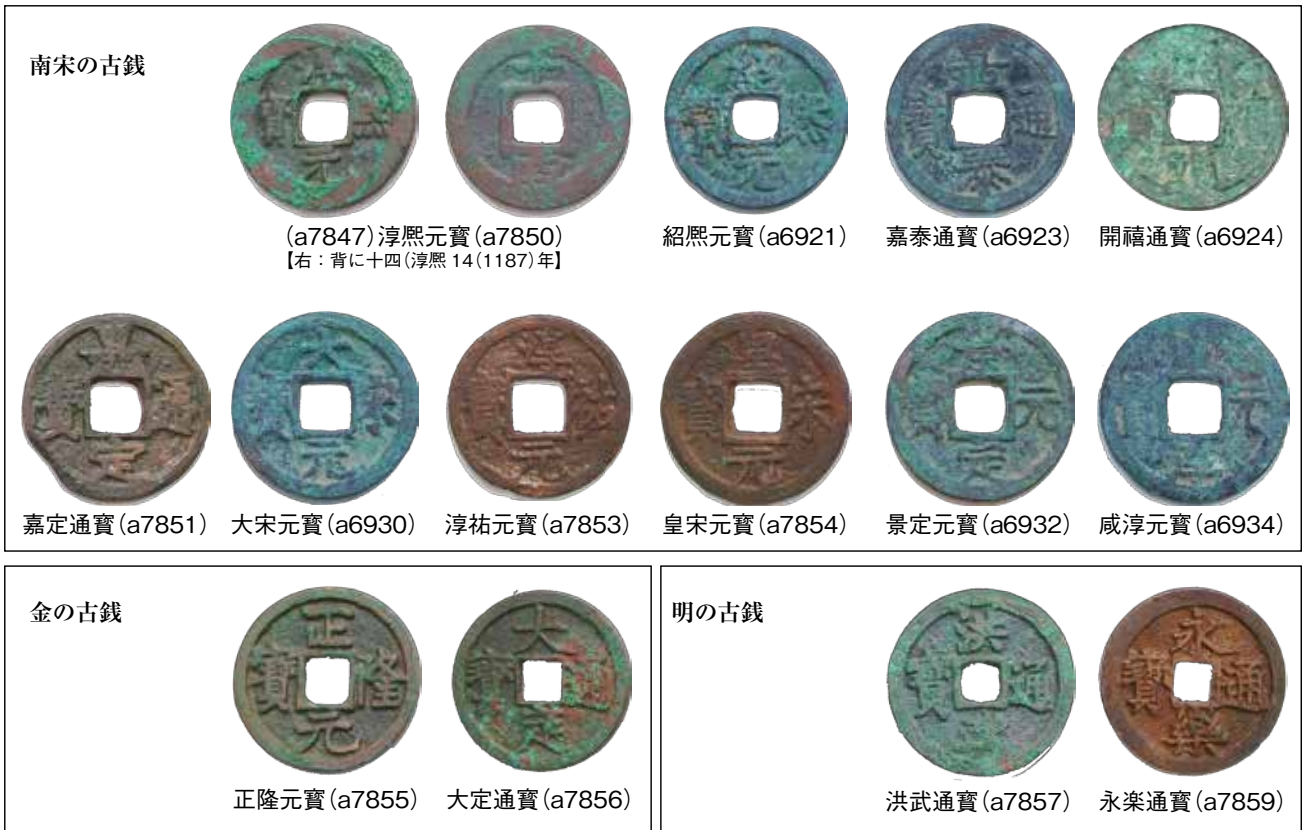


図4. 北の脇古銭 (2).

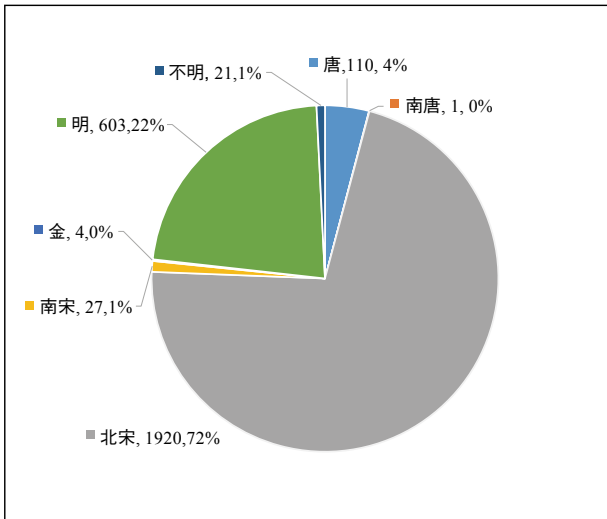


図5. 王朝別出土割合.

X線写真で判読できた古銭

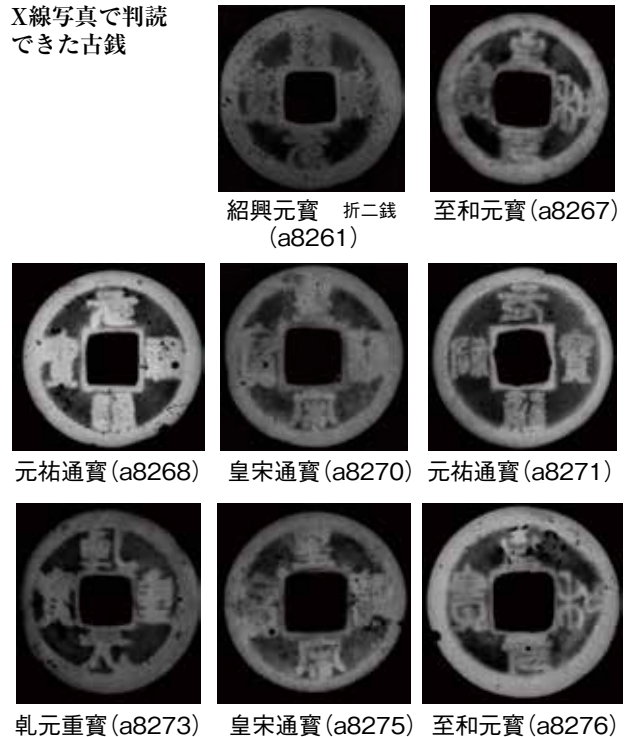


図6. 古銭のX線写真.

| 出土地 | 枚数 | 最古銭 | 最新銭 | 容器 | 時期 |
|---------|-----------------------------|----------|----------|--------|---------|
| 徳島市寺山 | 3,715 枚 | 五銖（後漢） | 至大通宝（元） | 木質容器 | 14 世紀 |
| 海陽町大里 | 70,088 枚 | 貨泉（新） | 至大通宝（元） | 備前大甕 | 14 世紀後半 |
| 徳島市一宮 | 17,178 枚 | 四銖半両（前漢） | 至大通宝（元） | 素焼き壺 | 14 世紀後半 |
| 阿南市北の脇 | 現存 2,652 枚 （推定 10,000 枚） | 開元通宝（唐） | 永楽通宝（明） | 壺 | 15 世紀前半 |
| 小松島市根井 | 1,607 枚 | 開元通宝（唐） | 永楽通宝（明） | 小型の備前壺 | 15 世紀前半 |
| 阿南市長生 | 26,338 枚 | 開元通宝（唐） | 世高通宝（琉球） | 備前大甕 | 15 世紀後半 |
| 美馬市重清城名 | 約 1,000 枚 | 開元通宝（唐） | 宣徳通宝（明） | 素焼き壺 | 15 世紀後半 |
| 美波町北河内 | 約 100000 枚 | 不明 | 寛永通宝（鉄） | なし | 19 世紀以降 |
| 神山町神領 | 約 15,000 枚 | 不明 | 不明 | 不明 | |
| 海陽町船津 | 約 20,000 枚 | 不明 | 不明 | 不明 | |

表 2. 徳島の大量一括出土銭 一覧.

15 世紀前半と判断される。銭が壺に収められ、更に壺が埋納された時期も、それと大きな差はないと考えたいが、周辺の遺跡の立地や壺および壺の埋納遺構に関する情報が少ないため、これ以上の言及は困難である。

徳島県内の古銭が大量に出土したのは、北の脇古銭を含め 10 か所が知られている。北の脇古銭は、県内最多の一括銭が見つかった海陽町大里古銭、徳島市一宮古銭よりも少し新しい時期に集約された銭で構成されていることになる。美波町北河内銭は、推定 10 万枚の古銭が発見されているが、寛永通宝の鉄銭が多数を占めていることから、幕末から明治にかけて埋められたと考えられ、他の古銭とは年代が大きく外れる。

おわりに

集落などから出土した銅銭は、劣化の進行が顕著で、銭種が判然としないだけでなく、割れや脆弱化の進行が著しいものが多い。それに対して、博物館に寄贈された北の脇古銭は、銭種の判別が比較的容易で、金属の特徴である硬さとしなやかさが残っている資料が多い。特に初鑄年が最も新しく、数も多い永楽通寶では、形状のバリエーションが少なく製作に安定性がみられるほか、劣化の進行も遅いことに気が付く。北の脇古銭を納めていた壺の行方は定かではないが、一定期間この壺内で密封されていたことで、古銭の劣化が抑制されていたとも考えられる。また、鑄の進捗については、銭同士が密着していた鑄痕跡のある古銭と、ほとんど鑄がみられずに銅の金属光沢が残る古銭がある。これは壺内で古銭が置かれていた位置が影響しているのではないかと推定される。銅製品の鑄の進行について、興味深いデータである。

北の脇海岸に隣接し、関連性を示すことのできる遺跡

はほとんどなく、北の脇古銭の性格を検討することは大変困難である。これについては、周辺の考古学・埋蔵文化財調査の進展に期待したい。

謝 辞

本稿を作成にあたって、以下の皆さまにご協力いただきました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

(50 音順、敬称略)

秋本沙枝子、岡本治代、尾崎巧、高島芳弘

参考文献・引用文献

- 阿南市教育委員会. 2011. 川原遺跡 市営住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書. 26p. 阿南市教育委員会・阿南市市民部文化振興課, 阿南.
- 阿南市史編さん委員会. 1988. 阿南市史第 1 巻 (原始・古代・中世編). 691p. 阿南市, 阿南.
- 兵庫埋蔵銭調査会・永井久美男編著. 1994. 阿波海南 大里出土銭—中世中期大量埋蔵銭の調査報告書—, 190p. 海南町教育委員会, 徳島.
- 石田啓佑・鈴木茂之・山下真司・辻野泰之・中尾賢一・西山賢一・橋本寿夫・森江孝志. 2015. 阿南市蔵石海岸のメランジュを構成する付加体堆積物と海底地すべり堆積物. 阿波学会. 阿波学会紀要, 60: 187-194.
- 永井久美男編. 1994. 中世の出土銭—出土銭の調査と分類—. 272p. 兵庫埋蔵銭調査会, 兵庫.
- 西崎聖二郎・高島芳弘. 2014. 徳島県阿南市北の脇海岸に漂着した土器片・陶磁器片について. 徳島県立博物館研究報告, (24): 35-44.

- 高島芳弘. 2015. 阿南市北の脇海岸に埋められていた古銭. 徳島県立博物館ニュース, No.99:6.
- 徳島県教育委員会. 2006. 徳島県遺跡地図第二分冊—遺跡地図編—. 174p. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 徳島県教育委員会. 2011. 徳島県の中世城館徳島県中世城館総合調査報告書. 徳島県教育委員会, 徳島.
- 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター編. 2007. 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第70集 寺山遺跡 広域基幹河川改修(園瀬川)事業事業関連埋蔵文化財発掘調査報告. 590p. 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター編. 2010. 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第81集 宮ノ本遺跡Ⅱ—桑野川床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—. 413p. 徳島県教育委員会財団法人徳島県埋蔵文化財センター, 徳島.
- 植地岳彦. 2018. 銅製品のサビをしてみよう—北の脇—一括出土銭の観察から—. 徳島県立博物館ニュース, No.112:2-3.
- 梅原末治. 1985. 銅鐸の研究. 493. 木耳社, 東京.
- 財団法人徳島県埋蔵文化財センター. 1997. 試掘調査. 徳島県埋蔵文化財センター年報, (8):61.